

越前市中心市街地活性化基本計画策定委員会（大野市中心市街地視察）

日 時：平成28年2月12日（金）10:00～17:00

場 所：福井県大野市中心市街地

参加者：中心市街地活性化基本計画策定委員 10名

金田副委員長、西藤委員、黒田委員、山口委員、村田委員、小形委員、
坂口委員、能勢委員、石井委員、三崎委員

越前市職員 4名

都市計画課 平野課長、石本主査

商業・観光振興課 出倉副課長、山口主幹

行 程：10:00 越前市役所発

11:30 大野市着

・昼食後、自由行動・散策

13:00 大野市役所着

・大野市担当者より中活計画概要、進捗状況、まちなか観光の取組説明

14:20 結ステーション着

・まち歩き、施設見学（結ステーション、七間通周辺、平成大野屋）

15:15 平成大野屋着

・質疑応答、意見交換

15:30 大野市発

17:00 越前市役所着、解散

配布資料

越前市配布資料

- ・「大野市中心市街地視察概要資料」
- ・「大野市中心市街地活性化基本計画の事業概要」
- ・「結の故郷越前おおの観光パンフレット」
- ・「結の故郷越前おおのグルメガイド」

大野市配布資料

- ・「400年以上続く城下町と中心市街地の活性化～福井県大野市の取り組み～」
- ・「越前おおの酒マガジンしおり」
- ・「冬のおでかけガイド」
- ・「酒枡コレクションラリー」
- ・「まち講座 匠の勧め@結の故郷～まいの職人の技にちょっとふれよう～」
- ・「結の故郷越前おおの新定番 イチオシのグルメ&おみやげ品大特集」

1 大野市役所視察

○挨拶（大野市商工観光振興課 湯川課長）

○取組説明① 400年以上続く城下町と中心市街地の活性化（大野市中心市街地活性化室 林主査）

【説明概要】

- ・大野市に受継がれる城下町と町割り
- ・コンセプト「原点への回帰 ～人が集う、活気に満ちた城下町の再生を目指して～」の設定
- ・第1期計画の概要（計画期間 平成20年7月～平成25年4月）
（主な事業）
交流・観光の拠点「越前おおの結ステーション」、名水のまち体感「JR 越前大野市駅前広場整備」、まちなかへの誘導拠点「城下町東広場」、保健福祉医療のサービス拠点「結とびあ」、市挙げてふるさと元気に「越前大野城築城祭」、
- ・第2期計画の概要（計画期間 平成25年4月～平成30年3月）
（主な事業）
市民が集い、憩い、学ぶ「新庁舎」、潤いとやすらぎの義景公園、新庁舎隣地に防災広場「城下町南広場」、市政60周年を記念「結の故郷発祥祭」、まちづくり会社をサポート「民間まちづくり支援」
- ・最新の数値目標達成状況 平成26年度定期フォローアップに関する報告
- ・若者のまちなか回帰、輝く大野人、(株)電通関西支社とのコラボレーション、JR 越前大野駅でのおもてなし

○取組説明② 大野市の観光について（大野市商工観光課 横井課長補佐）

【説明概要】

- ・最近生まれた宝物「天空の城 越前大野城」について
- ・「日本百選」や「平成の百選」「日本の重要湿原500」について
- ・まちなか観光の主なスポットについて
越前大野城、城下町、七間朝市、寺町通り、湧水スポット、結ステーション
- ・大野市観光客入込み客数の推移
- ・まちなかで開催されているイベントについて
小京都物産5番祭り、三大朝一物産祭り、越前おおのとんちゃん祭り、おおの城まつり、越前おおの冬物語
- ・観光客を増やす取組について
酒枡コレクションラリー、越前おおのちょい呑み酒遊、まちなか散策誘致事業（8名以上の団体が対象）、滞在型企画旅行助成事業（15名以上のバスツアーが対象）、まちなか遠足誘致事業、学生合宿誘致事業、エコ・グリーンツーリズム推進事業
- ・新たなインパクトについて
舞鶴若狭自動車道、北陸新幹線、中部縦貫自動車道、東京オリンピック
- ・国際観光（インバウンド）の取組について
広域連携の推進、英語表記・多言語化、無料Wi-Fi

○質疑応答

質問：観光施策におけるまちづくり会社、市、観光協会の役割分担は。

会頭：まちづくり会社は商業活性化、まちなかへの誘客（クーポン付きマップの配布など）、観光協会は大野市全体の観光施策（HP での情報発信や四季を通じたイベントの開催、観光ボランティアガイドの育成）、市は事業者に対する補助や対外的な観光 PR、エコツーリズムの窓口、『おおのブランド』の発信を行っている。

質問：中活計画で設定された目標数値を大きく上回る実績だが、実感は。

回答：実際にまちを歩く観光客は目に見えて増加しており、市民の意識、特に若い方の意識が変わった。また、結の故郷推進室が『おおのブランド』、商工観光振興課が対外的な観光の PR を分担することで互いに刺激を受けている。

質問：経産省の中心市街地再興戦略事業費補助金を受けた事業について、詳細は。

回答：まちづくり会社（結のまち越前大野）が補助金を受けた。市制 60 周年事業を市が行うイベント、市が補助するイベント、まちづくり会社が民間事業者と連携して行うイベントに分け、3 番目が補助対象になった。事業費 7,500 万円に対して約 4,800 万円の補助金を受けた。

質問：将来的には補助金がなくとも活発な町になりそうなのか。

回答：これまで空き店舗の改修補助や家賃補助、後継者に対する支援などを行ってきたが、その支援を受けた方々が今度は外から人を呼び込んだり、店舗が活性化の拠点になりつつある。若手商業者が自立し、商工会議所の青年部に入ってパブリックを意識した活動を行うなど、良い流れが生まれている。

質問：補助を受けた事業の継続性は保たれているのか。

回答：実際には補助を受けても閉店する方はいる。まちなかの 7 割が土地も建物も自己所有であるため、事業をやめても住民としてまちなかに住み続けている。

質問：越前市では土地所有者と建物所有者、事業者が異なる場合が多い。

回答：大野市でも所有者と事業者が違う 3 割の場所は事業が進まないこともある。実際に建物が壊されてまちなみが崩れるというケースもあった。店舗の貸出に消極的な方もいて新規出店ができないという場合もある。

質問：中心市街地の住民は大野市が観光の街になることを歓迎しているのか。

回答：商業者は歓迎しており、観光客を意識し始めている。歩行者が増えると活気が感じられるため、観光客を増やすとことが中心市街地活性化の取っ掛かりであった。そのために大型バスを停めて誘導する場所として結ステーションを設けた。

質問：越前市の場合まちなかは高齢者が多いが、大野市は。

回答：大野市もまちなかの高齢化率は高い。中心市街地域内にスーパーやショッピングセンターはないが、区域の縁辺部に立地している。大野市の高齢者は元気で自転車で回る人が多いため、買い物に不自由はしていない。また、まちづくり会社主導で区域内に日用品が買える店舗の計画がある。その他、まちなかは循環バスが走っている。地域で雪降ろしをするコミュニティに対しても補助金が出ている。

質問：まちなかに病院はあるのか。

回答：医療機関はまちなかに集約されている。国交省の立地適正化計画に大野市も取り組む予定であり、集約や建替えのあり方について検討している。

質問：大野にはビジネスホテルがなく、代行やタクシーも深夜営業は少ないため、大野で飲んでも勝山に泊まることが多い。宿泊型の観光は難しいのではないか。また、インバウンド（訪日観光客）への対応をどのように仕掛けていくのか。

回答：宿泊客の受け入れについては市内の旅館や民宿と検討中である。100人規模で宿泊可能なビジネスホテルが大野にも欲しいが、採算性の問題で誘致に踏ん切りがつかない状況である。インバウンドへの対応は各商店に温度差があるが、前向きな方々と一緒に考えていきたい。

質問：まちなか遠足誘致事業の小学生に支給する300円の財源は。

回答：市が負担している。まちなか遠足事業は10年以上実施しており、ちょっとしたお土産を買ってもらうことを狙っている。リピート券も配布しており、帰宅後に家族に渡してもらうことでさらなる消費につながることを期待している。



大野市役所外観



市役所 1 階ロビー



市役所・結とぴあ連絡通路



挨拶（大野市 湯川課長）



取組説明（大野市 林主査）



取組説明（大野市 横井課長補佐）

2 まち歩き・施設見学

(ルート) 結ステーション→六間通り→寺町通り→七間通り→平成大野屋



結ステーション



結ステーション



結ステーションからの越前大野城の眺望



六間通



寺町通・七間通交差点



七間通



大野市観光協会



菓子処 順和堂



3 意見交換（場所：大野市まちなか観光拠点施設・平成大野屋 2 階）

質問：電通とのコラボレーション企画はどのようなものか。

回答：大野のアイデンティティとして『水』をピックアップするトリムウォータープロジェクトが実施された。資源として経済的に活用しながら、東ティモールへの支援費用を集める活動の中で大野について情報発信を行った。

質問：ハード整備にはいつから着手したのか。

回答：全国の大野姓の方々を大野市に招待するという平成 9 年のイベントがきっかけである。幕末の大野屋に準え『平成大野屋』を設立し、交流施設として整備した。その平成大野屋が現在はまちなか観光の拠点になっている。その後、10～15 年をかけて順次ハード整備を行ってきた。ハード整備が終わり、現在はソフト事業を中心に活性化に取り組んでいる。

質問：中心市街地活性化の旗振り役は誰なのか。

回答：最初は行政主導であったが、徐々に音楽コンサートなどの市民提案型のイベントが盛り上がっていった。それらのイベント会場が整備されたことが土壌になり、さらにもう一世代若い世代が自主的に活動を始めている。

質問：活性化はソフト事業の成功によるものか。

回答：ハードからソフトへの転換期に仕掛けたイベントが成功したことが大きい。大野市の市民性も成功要因だと考えられる。越前市も国際音楽祭が開かれたり、大学が立地していたり、タンス町の街並みなど、ポテンシャルは十分にあると思う。

質問：平成 27 年度、とんちゃん祭りが開催されなかった理由は。

回答：規模が大きい祭りのため、スタッフの負担が大きく、今年度は余裕がなかった。来年度は実施する予定である。

質問：まちづくりの方向性は 15 年間一貫していたのか。

回答：越前大野城というメインの観光施設があり、軸がぶれることはなかった。第 1 期中活計画は結ステーションの設立までに苦勞した。

質問：中活事業の経済効果はどの程度か。

回答：具体的な統計はないが、飲食店も旅館もお客数の数は増えた。通りを歩く人も目に見えて増え、観光を意識したお洒落なお店（カフェ等）も増えた。

質問：七間朝市は毎日開催されるのか。

回答：ほぼ毎日開催されてはいるが、伝統行事的な要素もある。パンフレット写真のような規模での開催は希である。

質問：商店街においては地元住民と観光客、どちらの売上が増えているのか。

回答：数値の統計がなく分からない。



意見交換の様子



意見交換の様子